組織的調査研究活動推進事業（要約）
（石垣島におけるシャコガイ漁業）

調査研究活動チーム
友利昭之助・村越正慶*・杉山昭博（八重山支場）
玉城正雄・新里勝也（八重山支庁）
川崎一男・勝俣亜生**（水産振興課）
糸満盛健・新城　博***（漁政課）

1　調査研究活動の目的及び方法

沖縄県におけるシャコガイ漁業の盛んな地区は本島南部地区及び八重山地区であり、サンゴ礁の水産的有効利用と沿岸漁業の振興策の一つとして、シャコガイの大幅な生産増が期待されている。しかしながら最近生産量は激減傾向にあり、今後のシャコガイ漁業の振興をはかる上で、種々の問題があるものと考えられる。そこで八重山地区の中心である石垣島のシャコガイ漁業について漁場、漁法、販路、加工そして経営等に関する調査をおこない、問題点を明らかにし、その解決策について検討する。

調査研究活動の方法は(1)現状・調査、(2)標本船調査、(3)試験放流調査（栽培漁業導入の検討）の各調査を実施し、シャコガイ漁業の振興策を図る上での問題点と対応策について研究、普及、行政及び漁業現場の各部門から総合的に検討するために(4)検討会を開催した。

2.　調査研究活動の結果

調査研究活動の期間は昭和58年度～59年度の２年間であり、昭和58年度は主に(1)現状調査と(2)標本船調査を行ない、現状の把握と問題点の抽出に努めた（沖水試資料№79）。昭和59年度は(3)試験放流調査と(4)検討会の結果から今後のシャコガイ漁業の振興を図る上での問題点と対応策等についてを重点的に取り上げた。

結果等の詳細については「昭和59年度組織的調査研究活動推進事業調査報告書」（沖水試資料№87）で報告したので、ここでは概要を述べる。

①　シャコガイ漁業の現状は乱獲及び赤土等の流入による穿孔基質の喪失のために漁獲量が急減し、他漁業への転向、兼業化が目立っており、他のサンゴ礁湖内漁業資源への影響が出始めている。

②　漁獲量の減少と平行して進行している漁獲サイズの小型化は産卵可能個体数の減少を助長している。

③　加工業者は材料不足により原材料を輸入品にたよっている。

④　「南海の珍味」として高級嗜好品になってしまったが需要は充分にある。

⑤　資源培養型漁業を推進する必要があり、ヒメジャコでは１㎜サイズ種苗10万個台の種苗生産

---

*：報文とりまとめ、**：現在の所属　水産試験場、***：現在の所属　水産振興課

技術の確立及び試験放流の効果が実証された。

⑥　現在の種苗生産数では全地域にわたって種苗放流を実施するには問題があり、県漁業調整規則の早期改正*をおこない、資源管理型漁業も導入する必要がある。

⑦　資源培養型及び管理型漁業を効率的に推進するためには、「漁場の管理」をおこなう「シャコガイ組合」を急ぎ結成する必要がある。

3.　総合考察と今後の課題

石垣島のシャコガイ漁業は急速に根底から崩壊にむかっていると判断される。しかしながら、シャコガイは餌を体内の共生藻に依存しており、定着性で生息密度も高く資源管理型及び培養型漁業に適した種類であるために資源の回復手段を早急に講ずれば、活路はまだ残されている。

今後の課題としては①シャコガイ資源の増殖に関する啓蒙活動の実践がまずあげられる。そして技術的な面では②種苗量産化体制の整備、③放流技術の省力化、④放流基盤の確保及び⑤放流用人工基質の開発があげられる。

---

*：昭和60年9月6日に公布（県公報第1377号）